

景況レポート

(5月分・情報連絡員60名)

好転業種はなく、悪化割合がさらに増加し、最低数値の記録更新

【概況(全体)】

5月分の県内景況は、前年同月と比較して景況が「好転」したとする向きが0% (前回調査3.3%)、「悪化」が88.3% (同80.0%)で、業界全体のDI値は-88.3となり、前月調査と比較し11.6ポイント下回った。

本県の景況DI値は製造業、非製造業ともに下げ幅が大きく、3カ月連続で全国及び東北・北海道ブロックを下回る結果となった。

【業界別の状況】

新型コロナウイルス感染症の影響が非常に大きく、製造業、非製造業ともに好転したとする業種は全く無く、悪化割合が5業種増加したことで、前月調査を大幅に下回ることとなった。

2月以降の景況DI水準は大きく下降している。4月以降はリーマンショック発生時を下回るインパクトとなり、景況悪化の大きさを示す結果となっている。緊急事態宣言は解除されたが、引き続き経済活動は停滞しており、業種を問わず、景況DIがマイナスとなっている。新型コロナウイルスの影響が長引くにつれ、経営が圧迫され、先行きを不安視している声も増えている。

<全国及び東北・北海道ブロックとの景況DI値の比較>

	秋田県	全国	東北・北海道
全体	-88.3	-74.6	-72.7
製造業	-91.7	-78.0	-73.6
非製造業	-86.1	-72.1	-72.2

<景況天気図>

項目	業界の景況	売上高	収益状況	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
製造業							
非製造業							

【凡例】

--	--	--	--	--

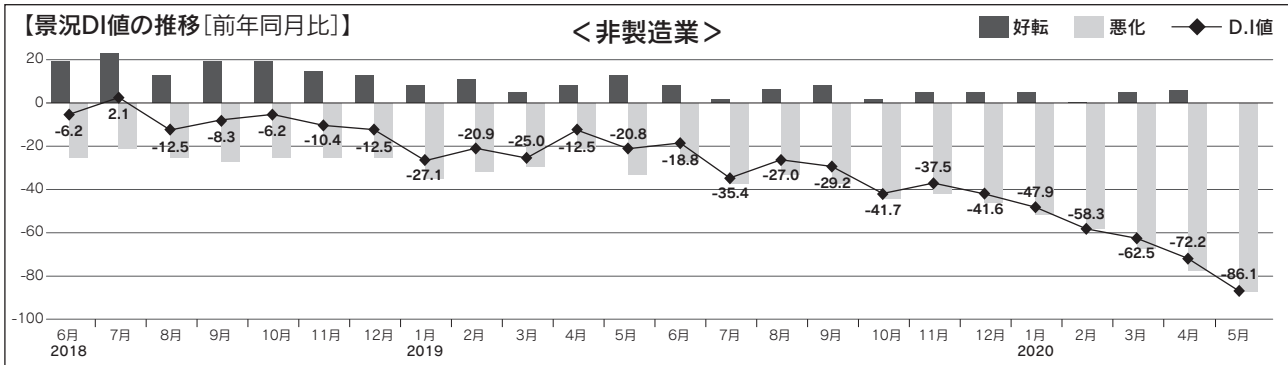
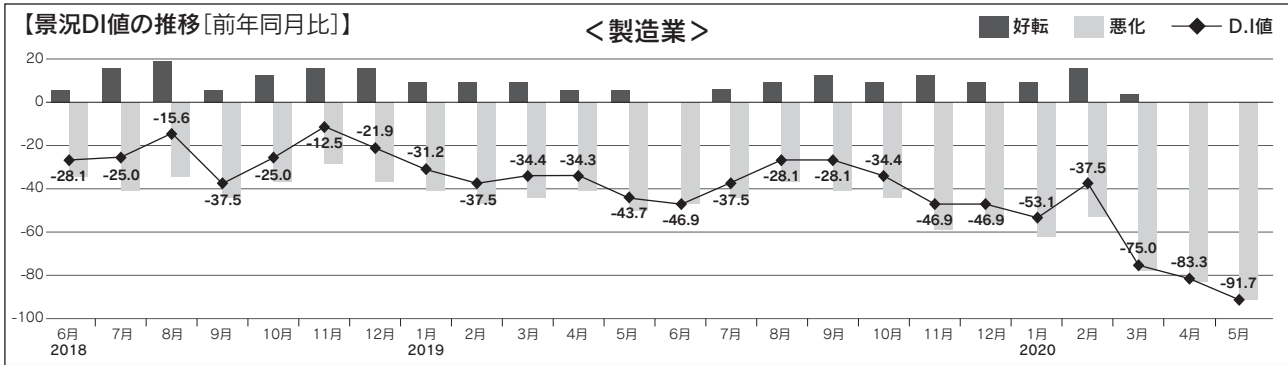
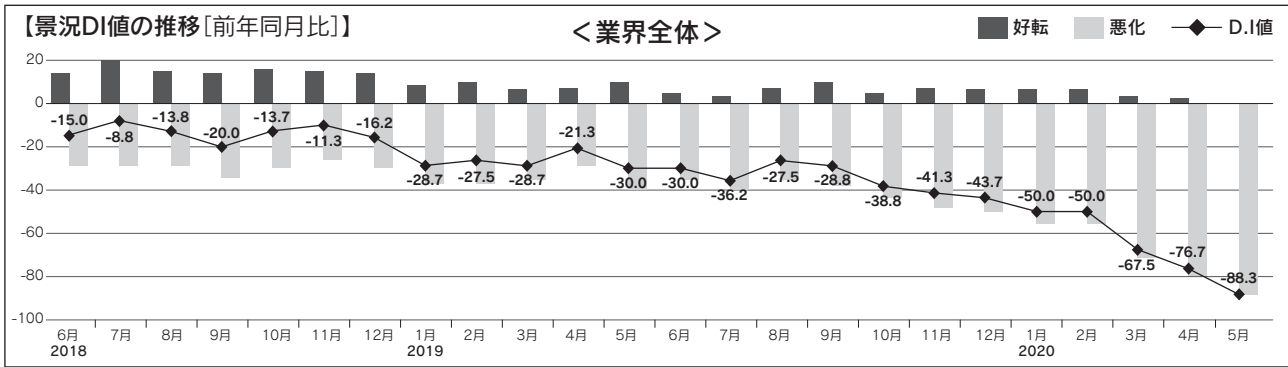
【天気図の見方】
前年同月比のDI値をもとに作成しています。

※DI値とは、Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。

【業界の声】 ~製造業~

(回答数：24名 回答率：100%)

食料品 (パン)	小売は前半が不調であったが、後半に回復してきた。各種大会・行事が中止となり、見込んでいた売上が全く上がらず全体的に大きな減収となった。
食料品 (製穀・製粉)	新型コロナウイルス感染症の影響による納入先の生産調整休業が4月から続いており、売上減少幅が拡大してきている。
繊維工業 (ニット)	平常時でも端境期に入っており、ファッション衣料の受注がほとんどない。マスクや医療用ガウンの生産で繋ぎながら凌いでいる状況にある。
繊維工業 (繊維)	新型コロナウイルス感染症の影響により小売が悪化したことで、工場の受注が減少している。現在、医療用ガウンの受注によって稼働を維持している。今後、1年以上は厳しくなりそうである。
木材・木製品 (一般製材)	新型コロナウイルス感染症による営業自粛等によって売上が25%減少した。6月以降はさらに荷動きが停滞し、売上減少によって資金繰りが厳しい状況になりそうである。売上減少のピークは7月~8月との情報があり、減少幅は40%~50%と予想される。
木材・木製品 (家具)	例年、4月~6月に続く季節変動による売上減は、その後の数字で補完するよう努力と我慢の時期であるが、新型コロナウイルス感染症によって今年の見通しは全く不測となった。
印刷	新型コロナウイルス感染症により、イベント・総会等の中止が多く、減収の状態が続いている。一部で特需も発生しているものの多くの企業は売上減少になっており、資金繰りの悪化は小規模事業者ほど堪えており、今後、組合員も含めて得意先の倒産、廃業が心配される。
窯業・土石製品 (生コンクリート)	5月の出荷数量は前年同月比90.1%である。4月~6月累計では92.7%となっており、能代山本地区、男鹿南秋地区を除き低調に推移している。今年度のお荷想定数量は672,000m ³ (前年度実績比90.8%)と厳しい数字である。加えて、新型コロナウイルス感染症の影響から不急の工事の延期等が考えられる。
鉄鋼・金属 (機械金属)	各社、2割~5割売上が低下している。見積物件もほとんどない状態が続いており、先月より一層深刻な状況になっている工場もある。
その他 (曲げわっぱ)	新型コロナウイルスの影響で売上が減少、収益悪化で資金繰りが厳しい状況で、各社、各種補助金や融資制度を活用している。



【業界の声】 ~非製造業~

(回答数：36名 回答率：100%)

卸売業 (青果)	売上高は前年同月比100.5%で推移した。新型コロナウイルス感染症による自粛体制が続いたため、外食を避け自宅で食事を摂る傾向が高まり、スーパーマーケットを中心に青果物の販売は想定したほど落ち込まず、逆に、わずかではあるが昨年同期を上回る結果となった。ただし、ホテル関係、飲食店等からの業務用需要は営業自粛の影響が大きく、低迷が続いている。
卸売業 (米麦卸)	令和元年産米の5月末主食用米の販売進捗率は70.6%となり、3月、4月の販売増の反動が5月の落ち込みの原因となった。
小売業 (花卉)	母の日は例年並みの需要に近づいたが、葬儀やイベントなどが行われていないことで需要がかなり落ち込んでいる。卸、仲卸、小売店ともに前年より3割~4割減が3ヶ月続いている。
商店街	飲食、宿泊関連の売上減少は激しく、その他小売店も大幅に売上を落としている。売上の要件で持続化給付金の対象にならない店舗は経営が困窮している。キャッシュレス決済も最近増加し、現金不足で資金繰りにも大きな影響を及ぼしている。(大館市) 新型コロナウイルス感染症の影響は様々な企業に悪影響を及ぼし、売上は過去最大の減少幅となった。街区内のホテルは資金繰りが悪化し、事業継続が不可能となり破産申請を行った。(鹿角市)
サービス業 (旅行)	新型コロナウイルス感染症の影響が甚大で、国内旅行は前年同月比2.0%、海外旅行の取扱いは全くない状況にある。
サービス業 (タクシー)	新型コロナウイルス感染症の影響により、出張と観光客の入り込み、飲食を中心とした夜間の動きがない。宿泊と飲食のプレミアム券の波及効果や各業界の動きが気になるが、自粛ムードが続いており、景況が上向くまでには相当に時間がかかりそうである。
建設業 (一般土木建築)	新型コロナウイルス感染症の影響で民間はもちろん、官庁からの発注が低調な状態にある。
建設業 (電気工事)	新型コロナウイルス感染症関連は多少緩和され、通常の流通が戻りつつあり、受注件数も多少動きが見えてきている。しかし、建築関係は海外の資材、機器の搬入が未定であり、予見できない状況にある。
運輸業 (トラック)	輸送状況は量も少なく非常に悪かった。往復の貨物はほとんどなく、片道運行が多かった。売上は前月比、前年同月比ともに減少、収益は燃料価格が値下がりしたため、前月比、前年同月比ともに横ばいとなっている。